

手柄をたてることしか頭にない子供嫌いの刑
事、明日実が脱走した少年の真実を知り彼の
心を救おうとする話

幸福の埋葬

作・えん

登場人物

明日実 (25) 女刑事

松本亨 (16) 心を閉ざした少年

秋月楓 (8) 祖父と二人暮らしの少女

秋月宗助 (62) 楓の祖父

松本加奈子 (14) 亨の妹

その他

明日実の上司

刑務官 A

刑務官 B

お巡りさん

お手伝いさん

○少年刑務所 外壁の近辺 深夜
けたたましいサイレンと無数のライト。
必死で捜索している刑務官たち。

刑務官 A 「どこにもいません」
刑務官 B 「自分の伯父をめった刺しにして埋
めたヤツだ。逃がしたとなると大ごとだぞ」

○タイトル 「幸福の埋葬」

○秋月家・庭 晩

古く大きな屋敷の庭。

子猫スモモを探している秋月楓 (8)。

楓 「スモモ、スモモ」

植木の間からガサガサとスモモを抱い
た怪しげな性別不詳者 (明日実 (25))
が出てくる。

楓 「(驚いて) だれ？」

明日実 「(ぶっきらぼうにスモモを差し出す)」

楓 「(受け取って) 男？ 女？」

明日実 は胸を突き出して、オッパイを
指さす。

楓 「！」

明日実 「実はさー、記憶が、やばいんだ……」

楓 「やばい？」

明日実 「うん、よくわからないんだ……、自
分が誰か、どこから来たのか」

楓 「女はわかるのに？」

明日実 「オッパイあるからな」

庭に面した廊下を楓の祖父、秋月宗助
(62) と華奢で無表情な少年、松本亨
(16) が歩いて来る。

宗助 「どちらさままだ？ (明日実を上から下ま
で眺める)」

楓 「えっと……、前に引越しちゃったケン

ジのお姉ちゃん。スモモ姉ちゃん。スモモ
を見つけてくれたの」

宗助 「お姉ちゃん？」

明日実 がまた胸を突き出す。

宗助 「！ いや、失礼した。スモモを見つけ
て下さってありがとうございます」

楓「今日ね、楓んとこに泊まってもらうの」
宗助「(嬉しそうな楓を見て)そうですか、楓も喜ぶでしょう。どうぞ、ごゆつくりなさって下さい」
明日実「ありがとうございます」

○同・楓の部屋 晩

二つ並んだ布団。

風呂あがりでパジャマ姿の楓と明日実。

明日実「助かったよ」
自慢げな楓。

明日実「(自分を指して)モモコ？」

楓「だって、自分の名前わかんないんですよ？」
「スモモ見つけてくれたからモモコ」

明日実「ああ、そっか。ありがとう」
楓「オッパイ、ママよりちっちゃかったよ？」

明日実「(矯正したオッパイを見せて)ブラジャーで矯正的なオッパイを見せる。」「

明日実「上げて寄せるんだ。すごいだろう。」「
楓「ウソ、すごい(目が丸くなる)」

○同・食卓 朝

広い和室に大きな座卓。

明日実、楓、宗助、亭が朝食をとっている。

宗助「お手伝いさんが給仕している。」「
明日実「はい、ぐっすり」

宗助「楓は両親を亡くしてからいつもひとりなもんで相手してやって下さると助かります」

楓「スモモがいるもーん」

明日実「(亭を見て)そちらの方は？」

宗助「ああ、これは私の教え子でね、少しの間うちにいるだけです」

明日実「(亭に)よろしくね」

明日実「黙って無表情に頭を下げる亭。」「
M「ちえっ、しけたガキ」

○同・庭に面した部屋

明日実「スモモと遊んでいる楓。
楓の顔がパッと輝く。」

明日実「うん、あの亨ってヤツも一緒にさ」
楓「うん！」

○同・庭 晩

花火をしている明日実、楓、亨。

楓「わー、きれー」

明日実「これもすごいぜ、な、亨」
亨「（黙ってうなづく）」

明日実「ところでスモモの母ちゃんは？」
楓「死んじゃった……。カラスにやられて。」

カラス大っ嫌い！」

明日実「そうなんだ……。どっかに墓あるのか？」

楓「内緒」

明日実「内緒？」

楓「絶対、言わない」

明日実「どうして」

楓「言わない！」

明日実「だから、どうして？ いいじゃん、
教えてくれても」

楓「（むくれて）しつこい」

亨「そうだしつこい。だから大人は嫌いだ。
誰だって、言いたくないことはある」

楓「そうだ、そうだ」

明日実「（亨を見て）口、きけるんだ……」

楓「当たり前じゃん」

明日実「スモモがかわいそうだろ」

楓「楓のママ、病気で死んじゃって……。パ

パがお墓参り行って、帰り事故で死んじゃ

った……。だからタマのお墓は誰にも教え

ない。誰もお墓に行っちゃダメなの。絶対

ダメ！」

明日実「そうなんだ……」

泣きそうなのを楓が優しく抱きしめる。

それ不思議そうに見える明日実。

明日実「お前、楓には優しいんだな」

亨「……」

明日実「もつと色気のあるナイスバディな女
がここにいるってのにな」

亨・楓「????」

明日実「なんだ、そのわかり易いハテナ顔は」

小さく吹き出す亨。

亨「ジョーダン、きつい」

明日実M「笑うと可愛いんだ」

亨「（遠くを見て）似てるんだ」

明日実「え？」

亨「妹の小さい時に」

楓「イモウト？」

亨「うん、加奈子って言うんだ」

○道

スマホを片手に施設を探す明日実。

明日実「あすなる園、あすなる園」

“児童養護施設あすなる園”の看板。

明日実「ここか」

○あすなる園 食堂

亨の妹、松本加奈子（14）と明日実が

向かい合って座っている。

加奈子の肌は透き通るように白い。

加奈子「お兄ちゃんは？」

明日実「元気だよ」

加奈子「でも、たしか今……」

明日実「（小声で）ある人のところにいてね」

加奈子「え？」

ナイショと手ぶりする明日実。

明日実「そこに楓ちゃんって子がいて。加奈

子ちゃんに似てるんだって」

加奈子「……」

明日実「亨くん、加奈子ちゃんにも、きっと

会いたいんだと思うよ」

加奈子「（つぶやく）お兄ちゃん……」

明日実「いいお兄ちゃんなんだ」

加奈子「お兄ちゃんがいなかったら、私……」

明日実「ふたりっきりの兄弟だもんね」

加奈子「（小声で）そうじゃなくて……」

明日実「ご両親が亡くなってるから伯父さんの

加奈子「ここにいたんでしよう？」
明日実「？」
明日実「震えが大きくなる。」
明日実「小さくうなづく加奈子。話変えよっか」
明日実「この前、一緒に花火してね。亨も楽しんでそうだったよ。楓ちゃんちの猫の話になつてね。スモモっていう子猫がいるんだけど、お母さんネコのお墓の場所を楓ちゃんどうお母さんネコのお墓の場所を楓ちゃんく聞いたら急に亨がね“誰にだつて、言いたくないことはある”って怒るの」
加奈子「？」
明日実「ナイスバディの私よりガキの楓の味方するんだもんない。たく、ムカツク」
明日実「え、あ、冗談だよ」
加奈子「え、そうじゃないんです？」
明日実「え、大人でも、味方？ 私たちの味方ですか？」
明日実「え、そりゃ、もちろん……」
加奈子「……お兄ちゃん……、なんにもしてないんです」
明日実「？」
加奈子「……。あの晩、酔っぱらって帰ってきた伯父さんが急に私が寝てる部屋に入ってきて……」
明日実「驚く明日実。」
加奈子「もう2度と変なことされるのイヤだから両足で思いっきり蹴飛ばしたら机に頭打って……」
明日実「2度と……」
加奈子「見たら、息してなくて……。飛んできたお兄ちゃんが、伯父さんが死んでるのを確認して……。忘れて」
明日実「ワスレロ？」
加奈子「これまでのことも、今日のことも忘れろって。少し会えなくなるけど待っていい」

てくれって」

明日実「それで？」

加奈子「お兄ちゃん、重いのに、伯父さんか

ついで車に乗せて……」

明日実「車？」

加奈子「伯父さんの車。お兄ちゃん、免許は

ないけど運転はできるから」

明日実「それで？」

加奈子「それから、会ってない……」

○（回想）交番 深夜

泥にまみれた血だらけの亭がナイフを

手に交番にやってくる。

ただ事ではないと取り乱すお巡りさん。

お巡りさん「き、君、いったいどうしたんだ」

○（回想）警視庁特殊捜査課の部屋

上司「上司の命令を聞いている明日実。

いまま服役している。公安が手を回して脱

走させるから、お前接触して遺体の場所を

探れ」

明日実「どうして公安が？」

上司「北朝鮮に武器密輸している会社の経理

担当なんだ、松本の伯父は。で、裏帳簿が

入ったUSBをポケットに入れたとこまで公

安が確認している」

明日実「USB？」

上司「そこから行方不明だ。お前、早く手柄

たてたいんだろ。うまくやれ。相手はどう

せ世間知らずのガキだ」

明日実「ガキ、嫌いなんすよねー」

○秋月家庭（く道）

考え事をしている明日実。

明日実M「あいつ、一人で運んだのか、遺体。

まだ16のガキがひとりぼっちで……」

× × ×

（フラッシュバック）

真暗な中、穴を掘り遺体を放りこむ亭。

それから遺体にナイフを何度も突き立てる。

まくった腕には複数の青あざ。

魂が抜けたような無表情な亨の顔。

× × ×
明日実 M 「私の手柄って、なんのためだったっけ……？」

亨がやって来るが、楓がいないので引き返そうと背を向ける。

明日実 「亨。お前、何埋めたんだ？」

亨 「？（背中を向けたまま）」

明日実 「暗い穴の中に一人で何埋めたんだ？」

亨 「（少し振り返り）……？」

明日実 「加奈子ちゃんに、全部聞いた」

亨 「（顔色が変わる）」

いきなり走り出す亨。

負けずと追いかける明日実。

追いつき、腕をむんと掴む。

明日実 「トオル！ お前が埋めたのは遺体じゃない。自分の幸福だぞ」

亨 「……」

明日実 「わからないのか」

亨 「離せ！ 大人はクライだ！」

明日実 「お前がかばっても加奈子ちゃんは幸せにはなれない」

明日実の顔を見る亨。

明日実 「お前が不幸なのに、加奈子ちゃんが

幸せになれるわけないだろ。どうしてわかんない。頭冷やしてよく考えろ、この大バ

カ野郎！」

力が抜けていく亨。

明日実 「どこに埋めた？ 遺体は無実の証拠になる。だから言わなかったんだろう？」

うつむいたままの亨。

亨 「（つぶやくように）峠の横、林の中……」

思わず亨を強く抱きしめる明日実。

明日実 「大丈夫。お前も加奈子ちゃんも悪く

ない。悪くなんかいないんだ。少しは大人を

信じろ。絶対守るから。絶対！」

魂が、少し戻ろうとしている亨の顔。

○（秋月家の）裏山

楓 「小さな立て札“たまのおはか”。

楓 「スモモ、ここがお母さんのお墓だよ」

明日実 「後ろで手を合わせる明日実と宗助。」

明日実 「：：。秋月さん、知ってたんですよ

宗助 「ね、亨くんのこと」

宗助 「ええ。でもあんなことする子じゃない

明日実 「信じてましたから」

明日実 「そうですよね：：」

宗助 「亨も加奈子ちゃんも、落ち着いたらう

ちで引き取るつもりです。モモコさんも随

ちで引くして下さったそうで：：」

明日実 「：：でも本当はよくわからないんで

分力を尽くして下さったそうで：：」

明日実 「：：でも本当はよくわからないんで

す。どうしてあんなに死になつたのか：

：。あ、ごめんなさい、私モモコじゃなく

て明日実って言います」

楓 「アスミ？」

明日実 「うん、明日が実るって書いて明日実。

私、楓ちゃんにもっと胸がはれるようになち

やんとした大人になるよ：：」

楓 「？もう、おっぱいあるよ。上げて寄せ

て、おつきくして」

明日実 「思わず明日実の胸を見る宗助。

明日実 「こら！なんてことを！」

楓 「わーい、アスミが怒った！」

明日実 「待て、コラ！大人をからかうんじ

やない、このガキ！」

楓 「キヤー（逃げ回る）」

晴れた空に大きな笑い声がひびく。

○エンディング

再会できた亨と加奈子が抱き合う。

横から2人を大きく抱きしめる明日実。

子供の笑顔に戻った亨と加奈子。

少しマシな大人になれた明日実の笑顔。

（終）